

# 倫 理

(解答番号  ~ )

第1問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 25)

倫理というものを考える上で、「善とは何か」という問いは根本的である。およそ倫理的な行為は善に関する何らかの判断をもとにするからである。ギリシアの哲学者①ソクラテスはただ生きるのではなく、自己の魂を善いものとする<sup>こと</sup>で善く生きることを探究した。「一体、善とは何か」という問いに対して彼の弟子プラトンは魂の善を探究する道<sup>を</sup>押し進め、「善のアイデア」と魂のかかわりによってこれに答えようとした。アリストテレスは善を人間の自然本性に基づく②魂の内的働きと捉え、善のアイデアに代えて万人の希求する善としての「幸福」の実現を目指した。さらに  は、様々な情念から解放され、外部の何ものにも煩わされない魂の状態を善と捉え、理想とした。これらギリシアの思想家を見ると、まず自己の魂という内的視点が善に関する思索の基本にあつたことが窺える<sup>うかが</sup>。

ところでユダヤ教やイスラームにおいては、神の言葉に従うことが善であるとされる。聖書やクルアーンなどはそれぞれ神の言葉であり、これに背くことが悪とみなされる。ただその従順さは、何か規則に縛られたものというより、神に対する人格的応答であることを見逃してはならない。それゆえイエス・キリストは、ユダヤ教内でこの人格的応答の視点が後退し、いわゆる  が台頭したとき、これを徹底的に批判した。彼は人格的応答として神への愛を説き、これをもとに③隣人への愛を説いた。イエスの説く隣人への愛を広く利他性と捉えるならば、これは④大乘仏教の慈悲にも通じる思想と言える。

ギリシア哲学で探究された魂の善と、イエスの隣人愛や大乘仏教の慈悲に見られる利他性とは、我々が善を考える上で大切な視点である。では、この両者はどのようにかかわるのだろうか。ギリシア哲学の場合、例えばアリストテレスの友愛の思想に見られるように、魂の善をもとに他者への愛が論じられている。またイエスはパリサイ派を批判するとき「杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と

悪意に満ちている」と述べ、その外面的虚飾を退けており、まず内面の善を教えた。仏教の場合、利他性は自己の心の在り方、あるいは内面の錬成を基礎としてい  
ると言われる。同じことは⑥儒教の「仁」の思想にも当てはまる。

自己の内面の善と利他性についての思索は、我々が様々な思想から豊かに学ぶことのできるものである。現実の中では、⑦内面の善を求めているように見えて、単に自己の安楽を求めただけで、他者を蔑ろないがしにしている場合がある。また反対に他者の善を実現しようとしているように見えて、表面的結果のみを追い求め、内面を疎かおろそにしている場合もある。そこで、A。他者とともに生きる我々は、先哲の思想を学ぶことで、善をめぐる我々自身の理解を深めることができる。

問 1 文章中の 1 ・ 2 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- |   |   |            |             |
|---|---|------------|-------------|
| 1 | { | ① ヘラクレイトス  | ② アナクシマンドロス |
|   |   | ③ ストア派のゼノン | ④ タレス       |
|   |   |            |             |
| 2 | { | ① 法治主義     | ② 福音主義      |
|   |   | ③ 理想主義     | ④ 律法主義      |

## 倫理

問 2 下線部②のソクラテスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① デルフォイの神託がソクラテス以上の知者はいないと告げたことを誇りとし、問答によって人々に真理そのものを説いた。
- ② 神霊(ダイモン)を導入して青年たちを新しい宗教に引き込み、彼らを墮落させたと告発され、アテネを追放された。
- ③ 自らを「無知の知」に基づく知者と公言し、アテネにアカデメイアという学校を創設し、多くの弟子たちを教えた。
- ④ 「汝<sup>なんじ</sup>自身を知れ」というデルフォイ神殿の標語のもとに、問答法によって人々とともに知の探究に努めた。

問 3 下線部①に関して、『ニコマコス倫理学』において人間固有の働きの中でも最高の働きと評価される「テオリア」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① テオリアとは、原理を直観的に把握する理性の働きである。
- ② テオリアとは、主に制作活動にかかわる理性の働きである。
- ③ テオリアとは、厳密な論証・推論としての理性の働きである。
- ④ テオリアとは、主に行為・実践を導く理性の働きである。

問 4 下線部㉔に関して、イエスの説いた愛の思想として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 我々に親しい友人だけでなく、我々を嫌い敵対する者をも愛するようにしよう。自分を愛してくれる者を愛するのは当たり前であり、自分に敵対する者をさえ愛すべきなのである。
- ② 困っている人から哀願されたとき、我々はその人に同情し、その願いを聞き届けたいと思う。実現が難しくとも、我々はその憐れみの情を大切にすべきである。
- ③ 道端にたたずむ流浪者のような、自分にとって疎遠な人などよりも、我々に親しく優れた人とともにいる方がよい。つまり同じ社会に生きる親しく優れた人々こそ我々は愛すべきである。
- ④ 友人が暴漢などに襲われている場合、我々は速やかにその友人に手を差し伸べるべきである。たとえ命を落とすことになっても、友人を助けることは優れた愛である。

問 5 下線部㉕の「慈悲」に関する次の文章中の  ～  に入る語句の組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

「慈悲」とは、衆生に  を与える「慈」、衆生の  を取り除く「悲」から成る、生けるものすべてに向かった普遍的な心の在り方を表している。  
 を目的とすると言われる上座部仏教に対して、大乘仏教では利他の心としてこの慈悲が強調される。そして、菩薩はこの慈悲の姿の理想であり、衆生の救済に努めるとされる。

- ① a 楽      b 苦      c 自他の解脱
- ② a 楽      b 苦      c 自己の悟り
- ③ a 福      b 厄      c 自他の解脱
- ④ a 福      b 厄      c 自己の悟り

## 倫理

問 6 下線部㉔に関連して、儒教の「仁」と墨家の「兼愛」の相違を述べる文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 儒教の仁は惻隱そくいんの心に基づき、自他の区別を一切たてないが、墨家の兼愛は自分を捨て、他者のために利することを第一とする。
- ② 儒教の仁は弱者に対するものであり、まず女性や子どもに向かうが、墨家の兼愛はまず貧しい者に対するものであり、「憐れみ」と呼ぶべきである。
- ③ 儒教の仁は近きより始まるもので、まず近親に対するものであるが、墨家の兼愛は無差別の愛であり、親疎の関係に基づくものではない。
- ④ 儒教の仁は「忍びざるの心」と言われ、見過ごしにはできないという単なる気持ちだけだが、墨家の兼愛は行動的な博愛主義である。

問 7 下線部㉕に該当する事例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 泥棒が走って逃げていく。人の物を盗むなんて許せない。黙って放っておくことはできないし、またあそこで途方に暮れて座り込んでいる盗まれた人もかわいそうだ。追いかけて捕まえてやろう。
- ② 町の人に追われている友人が家に逃げてきた。友人は盗みを働いたらしい。盗人を匿かくまうのはよくないし、また彼も罪を償い出直してほしいと思うので彼に自首を勧めよう。
- ③ 隣人が、「火事だ！」などと、また嘘うそを言っている。真まに受けると彼の嘘を助長するので彼のためにならないし、自分も嫌な思いをしたくないので放っておこう。彼自身も自分の嘘むなが空しいことに気づくだろう。
- ④ 暴漢に追われている友人が家に逃げてきた。しかし、もし暴漢がこの家に来て、友人のことを尋ねたらどうしよう。暴漢は怖そうだし、嘘をつくと気持ちが落ち着かないので、ここにいると本当のことを告げよう。

問 8 本文の趣旨に照らして、文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 内面の善を考慮しつつ、同時に他者への善を求めることが大切である。例えばボランティア活動なども、ただ他者のためにのみあるのではなく、自己の内面の成長にも深くかかわってくるからである
- ② まず、他者に向けた善を行うことが重要である。例えばボランティア活動なども、社会に対する義務としてやってみなければならない。自己の内面は、社会に対する義務の遂行を通してのみ形成されるからである
- ③ もっぱら内面の善を求めることが大切である。例えばボランティア活動など、他者に対する善もそれに基づいているからである。そこで、我々は他者との関係を一切断って、自己の内面に沈潜すべきである
- ④ 利他的な善を求め、内面の善などは後回しにすべきである。例えばボランティア活動などは他者のためになればよいのであって、そもそも自己の内面を考える必要はない

## 第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～7)に答えよ。(配点 25)

私たちはふだん、自然観と社会観とをまったく別個のものと考えがちである。しかし、西洋近代を支配してきた①機械論的自然観と自由主義的社会観とは、いくつかの重要な共通点を持ち、相互に支えあっている、と見ることができる。このことは、②今日の環境問題の背景を考える上で重要な手がかりを提供している。

自由主義的社会観の原型となった社会契約説が17世紀以降広く受け容れられていく過程と並行するように、物質世界は機械の部品のように自然法則に従うだけの粒子から成ると考える機械論的自然観が台頭してきた。物体の本性は固さ、色、重さといった性質にではなく、延長をもつという点にある、と 10 は考えた。この自然観によれば、物質がもつ運動も、もともと神から与えられたものにすぎない。物質は生命も感覚ももたず、神が定めた自然法則に服従するだけである。

この機械論的自然観と自由主義的社会観との間には、次のような共通点がある。第一に、自然物がその部分である粒子の総和でしかないのと同様に、社会もまた、諸個人の結合体であり、総和である。近代の社会契約説によれば、国家権力は神から授けられたものではなく、③自然状態では無秩序に陥りがちな諸個人が、秩序を達成するため国家という政治体へと結合することによって初めて生じる。第二に、個体は全体に優先する、という想定が両者に共通している。機械論においては、物体よりもそれを構成する粒子の方が基本的であるように、④自由主義社会では、社会全体よりもそれを構成している個々人が優位に置かれる。いずれの場合も、全体は諸部分の結合によって形成されたものにすぎないからである。

第三に、両者はともに、人間による自然界の支配を正当化する二元論に立っている。すなわち、機械論的自然観が、世界を、人間の精神とすべての物質世界とに二分し、前者は後者の支配者となりうると主張したのに対応するように、近代の自由主義社会では、⑤人間が作り上げる社会と文化は人間以外の自然に優越し、またそれを支配しようと考えられてきたのである。

このような自然観と社会観は互いを補強しあい、一つの包括的な世界観を形づくることで、自然そのものから生命と能動性を奪い「自然の支配と利用」を促して、市場経済と開発を後押ししてきた。しかし、11 を優先するというこの社会観の

特徴のゆえに、無数の人間や企業による経済活動から生じる災厄——地球規模の環境危機——への対処は難しいものとならざるをえない。私たちは、近代を支配してきた世界観がもつ積極的意義を今後とも活かしていく努力を続けなければならないが、それとともに、㉞この近代的世界観の功罪を見定める必要もまたあるだろう。

問 1 文章中の 10 ・ 11 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- |  |   |                    |   |                     |
|--|---|--------------------|---|---------------------|
| <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</span> | { | ① パスカル<br>③ デカルト   | { | ② デイドロ<br>④ モンテスキュー |
| <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">11</span> | { | ① 公共の福祉<br>③ 財産の平等 | { | ② 個人の自由<br>④ 社会の秩序  |

問 2 下線部㉞に関連して、機械論的自然観の古代における先駆者の一人としてエピクロスがいる。エピクロスの倫理思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① 美のほとんどが便宜・効用という観念から生まれるのだから、快樂や苦痛は、美や醜の観念に必然的に伴うだけでなく、美や醜の本質をなす。
- ② いかなる快樂をも貪る人は放埒<sup>むさぼ</sup>だし、あらゆる快樂を遠ざける人は逆に無感覚な人になる。私たちは、双方の中庸である節制を目指すべきである。
- ③ 快樂や苦痛は、その強さ、持続性、確實性、遠近性などと、それが及ぶ人々の数を考慮に入れることによって、その総計を計算することができる。
- ④ 私たちが人生の目的とすべき快樂は、放蕩<sup>ほうとう</sup>者の快樂でも性的な享樂でもなく、身体に苦痛のないことと、魂に動揺のないことにほかならない。



## 倫理

問 3 下線部⑤に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① レイチェル・カーソンは、その著書『沈黙の春』において、地球温暖化やオゾン層破壊を原因として生じる生態系の破壊について警鐘を鳴らした。
- ② 地球温暖化やオゾン層破壊などの地球規模の環境問題とは違って、砂漠化や酸性雨問題では、被害の起きている現地で抜本的な解決策を立てうる。
- ③ 地球温暖化問題においては、現在の討議や民主的決定手続に参加できない未来世代が、現在の世代から深刻な環境危機を押しつけられる恐れがある。
- ④ 地球温暖化問題への取り組みの当初から、先進国のみならず発展途上国も温室効果ガスの排出量を削減する義務を負うという合意が確立している。

問 4 下線部③に関するルソーの思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 自然状態においては、人間は自分自身の生命を保存するために自らの力を好きなように用いる自然権をもっているから、この自然権が存続しているかぎり、いかなる人間にも安全はまったく保障されていない。
- ② 自然状態においては、人間は、自己愛と憐れみの感情とをもつだけで、虚栄心も敬意も軽蔑も知らなかった<sup>あわ</sup>ので、人間相互間にはいかなる社会的交渉もなく、所有権や正義といった観念もまだ存在しなかった。
- ③ 自然状態においては、各人が権利をもつのは、自己を他者の圧迫から守りうる間だけだと言えるから、自然権と言われるものも、それが各人単独の力によってのみ決定される間は無に等しく、むしろ空想でしかない。
- ④ 自然状態においては、法的に有効な判断を下す裁判官が存在しないため、権利をめぐる争いが生じた場合にも訴訟を起こせないから、それは言わば無法状態であって、所有権も単に暫定的に保障されるだけである。

問 5 下線部④に関して、様々な思想家が自由主義社会を理論的に擁護してきた。

ロック、アダム・スミス、中江兆民の自由主義理論の記述として最も適当なものを、次の①～⑦のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ロックについては  に、スミスについては  に、中江兆民については  に答えよ。

- ① 野生動物の世界で、劣弱な個体が淘汰<sup>とうた</sup>されることによって種の繁栄が維持されるように、人間社会も、自由な競争と個々人の自助的努力<sup>ゆだ</sup>に委ねられることによって進歩する。救貧政策は、この進歩を遅らせるだけである。
- ② 人民の権利には、民衆が国家から勝ちとる権利と上から民衆に恵み与えられる権利とがある。為政者が権力を振りかざし、自由権を民衆に返そうとしないから、民衆が動乱を起こして権利を回復しようとするのである。
- ③ 社会契約において各人は、自らの身体とあらゆる力を一般意志の指揮に委ねることによって、自然的自由と引き換えに社会的自由を獲得するだけでなく、人間を自己の真の主人へと高める精神的自由を得ることができる。
- ④ 人々が社会の利益を増大させようと意図する場合よりも、自己利益を追求する方が、より効果的に社会の利益を増大させることがしばしばある。それが実現するためには、完全な自由競争が行われなければならない。
- ⑤ 自己の身体、智慧<sup>ちえ</sup>、情欲、至誠、意思の五つを自在に働かせることは、個人の独立にとり不可欠である。これらを自在に行使しても、他者の同様の自由を妨害しないかぎり非難されることはなく、各人の権利の範囲内に属する。
- ⑥ 生命、自由、身体および労働は各人の所有物であり、このことにつき各人は他者に何も負っていないから、自らの労働の所産も本人の所有物になる。国家の最高権力といえども、本人の同意なしには誰<sup>だれ</sup>からも所有物を奪えない。
- ⑦ 秩序ある社会においては、各人は、最も広汎<sup>こうはん</sup>な基本的諸自由への平等な権利をもたなければならない。社会経済的な利益が不平等に分配される場合にも、社会で最も不遇な人々の便益が可能なかぎり考慮される必要がある。

## 倫 理

問 6 下線部㉔のような考え方を批判するために、様々な理論が提唱されている。

このような諸理論の中に含めるには**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 

18
----

- ① 人間にとって、良好な環境は、健康で文化的な生活を営むために必要不可欠な条件である。したがって、大気、水、日照、静穏さなどの良好な環境を享受し支配しうる環境権が、基本的人権として保障されるべきである。
- ② 地球上の生物の福利と繁栄は、それが人間であるか否か、また個体であるか種であるかを問わず、それ自体が価値をもっている。これらの価値は、人間以外の生物が人間にとって有用であるかどうかとは無関係である。
- ③ 歴史上、一部の人間から、より広い範囲の人間に権利が認められるようになっただけでなく、人間の形をしない企業、団体なども権利をもつと考えられるようになったから、川や森などの自然物に権利が与えられてもよい。
- ④ これまで人類は、自らを自然の征服者・支配者として位置づける一方、人間以外の存在に道德上の地位を与えてこなかった。これを改めて、動物、植物、土壌、水などを包括的に道德的配慮の対象にしなければならない。

問 7 本文の趣旨に照らして、下線部㊦に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① この世界観によって、人間を含めたすべての存在が、不変の自然法則に支配されているということが明らかにされたが、その半面、人間だけがもつと従来は考えられていた自由意志が存在しえなくなってしまった。
- ② この世界観によれば、社会の構成員一人一人の個人的善をもとにして、社会的な福利の最大化が目指されるが、その半面、社会全体の福利を増進するために少数者の権利を犠牲にすることも正当化されてしまった。
- ③ この世界観は、観察と実験により物質を部分へと分析することを促して科学の発展に貢献した半面、自然こそが、人間を含めたあらゆる生命を生み育む存在にほかならないことを人々に忘れさせてしまう傾向があった。
- ④ この世界観により、理性という能力を具えた人類が生物界において特権的地位を占めるということが確立されたが、その半面、人類もまた他の動物と連続性をもつ生物だという進化論の成果が見失われることになった。

## 第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～7)に答えよ。(配点 25)

いつの時代でも人間は理想を目指そうとしているが、よりよく生きようとするほどに、理想像から隔たった現実の自己を自覚して苦悩するものである。こうした苦悩に直面したとき、過去の思想家はいかに生きたのだろうか。ここで、親鸞と伊藤仁斎の場合を見てみよう。

古代・中世の日本において主導的であった仏教は、仏という理想像を人々に提示していた。親鸞は、成仏を目指して、20の教えに従って修行を行った。しかし悟りを得ることはできず、仏から隔たった自己を見つめて苦悩する。やがてその修行を離れ法然の弟子となった親鸞は、自力では克服不可能な根深い煩悩を抱え、悪人たらざるをえない自己を自覚していった。末法の世に生きる同時代の人間も同様であると捉えた親鸞にとって、この時代にいかに成仏が可能か、それが課題だった。そして、法然の教えをさらに深め、④ 新たな思想を提示したのである。親鸞によれば、根深い煩悩を偽りなく自覚し、阿弥陀仏の他力を信じて身をゆだねる「悪人」こそ阿弥陀仏が救おうと誓った対象であり、極楽浄土への往生と成仏が約束されているという。親鸞は、⑤ 煩悩を自覚することそれ自体のうちに、阿弥陀仏の救済の働きを見いだしたのである。親鸞から見れば、自力で成仏が可能であると思いついでいる「善人」は、自己の内なる根深い煩悩を真に見つめていない。③自力の修行は現実に根ざしていない虚偽の行なのである。

近世に生きた伊藤仁斎においても、自己における理想と現実との葛藤<sup>かつとう</sup>は新たな思想の契機となった。当時、主導的な思想であった朱子学は、心を統御し専一にする21を重んじ、あるべき道としての理を窮め、天理に合致した聖人になることを理想としていた。仁斎は、当初朱子学に傾倒して聖人になることを目指し、全精力を傾けた。しかし、天理に合致することは実現しがたく、充足感を得られなかった。仁斎は理想と現実との乖離<sup>かいり</sup>に苦しみ、やがてその理想を疑い始める。理想を見失った孤独と不安の中で、ひたすら読書と自己吟味を続けた仁斎は、⑥ 現実の日常的な生の中に、人間の新たな真実を見いだしたのである。仁斎によれば、Aという。新たな思想を抱いた仁斎から見れば、朱子学者は厳格な形式主義に陥り、日常の生の意味をくみ取ることができず、人々が営んでいるあるがままの

生を否定的に捉えがちなのである。

親鸞と仁斎は、当時主導的な思想が提示していた仏や聖人という理想像を目指し、いずれも理想を実現できない自己を自覚して苦悩した。しかし、その葛藤の中で自己を深く誠実に見つめ吟味した。その結果、現実に深く根ざした新しい思想を築くことができ、その時代の思想を批判できたのである。㉔親鸞と仁斎の生き方は、私たちに真によく生きるとはどういうことかを提示している。

問 1 文章中の  ・  に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

① 天台宗 ② 律宗 ③ 真言宗 ④ しゅげんどう 修験道

① 誠 ② 信 ③ 敬 ④ 忠

問 2 下線部㉔に関して、親鸞の思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 阿弥陀仏の救済の力は絶大である。念仏を唱える人間は誰<sup>だれ</sup>でも浄土に往生できるが、そのためには自己の煩悩を自覚し、日常生活のすべてを捨てなければならない。
- ② 念仏を唱えること以外の、一切の自力の修行を廃すべきである。阿弥陀仏は煩悩を抱えた人間のために称名念仏を選んだのだから、それのみを修行すれば往生できる。
- ③ 自力の修行で煩悩を克服することは困難である。浄土に往生するためには、日頃<sup>ごと</sup>念仏を唱えるとともに、臨終の際に煩悩が生じないようにすることが特に重要である。
- ④ 煩悩を抱えた人間が浄土に往生できるのは、完全に阿弥陀仏の救済の力による。自ら唱えているように思っている念仏や信心すら、阿弥陀仏の働きに由来する。

## 倫理

問 3 下線部⑥に関連して、聖徳太子が記したとされる「十七条憲法」の中には、煩惱の自覚に基づく条文がある。その条文の要旨として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 聖人や賢人のようには知恵の明らかでない者が愚癡である。聖人や賢人のようには才能の及ばない者が不肖である。愚癡不肖であっても良知良能がある。その良知良能を失わなければ、愚癡不肖も善人の徒なのである。
- ② 法による指導や刑罰による規制では、人々は法や刑罰に触れなければよいと思ひ、悪を恥じることがない。しかし徳によって導き、礼によって規制すると、人々は悪を恥じるようになり、おのずから善に至るものである。
- ③ 心のなかに怨みを抱かず、怒りを棄てよ。人はそれぞれ自分が正しいと思ひ他人が間違っていると思ひ込む。しかし自分が必ずしも聖人なのではなく他人が必ずしも愚者なのでもない。ともに欲望にとらわれているのである。
- ④ 人間の性質は悪であって、善なるものは偽(人為)である。人間は生まれつき利益を好み、妬み憎んだりする傾向があり、それに従うと争い合い秩序がなくなる。聖人はそれを見て、礼や法を制して人間の性質を正したのである。

問 4 下線部⑦に関して、同時代に自力の修行によって成仏が可能であると主張した思想家の一人に道元がいる。道元についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 戒律を厳しく守って坐禅にはげみ、公案に取り組むことによって悟りを得ることができる」と説き、さらに密教をも取り入れて鎮護国家に努めた。
- ② すべての衆生に仏になる可能性がそなわっていると主張し、大乘の菩薩戒のみを受けて長期間山に籠もって修行すれば、悟りが可能になると説いた。
- ③ 題目には釈迦の因行と果徳が十分にそなわっているとし、題目を信じて唱えるならば、それらが譲り与えられて、悟りが可能になると説いた。
- ④ 坐禅の修行は悟りのための手段ではなく、修行を行うことがそのまま悟りであると説き、また洗面や清掃などの日常的な行為も修行とみなした。

問 5 下線部④に関連して、日常を新たに捉え直す思想を抱いた人々のうち、井原西鶴と本居宣長の考えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。井原西鶴については  に、本居宣長については  に答えよ。

- ① 現実の世界は抽象的な理では捉えきれない、生き生きと生成する一大活物<sup>かつぶつ</sup>である。日常的な行為や心情も活物としての人間の働きであり、その中に条理がある。
- ② この世は「憂き世」ではなく、「浮き世」である。眼前の日常世界の中で、日々様々な快樂や富を追求するところにこそ、人間の生のありのままの姿がある。
- ③ 日常的な欲望や感情は、「やむを得ざる」自然なものであり、朱子学のように否定的に見てはならない。日常にかかわる道を行うことで、優れた治者たりうる。
- ④ 人間は、日常的な人間関係において愛敬の心を働かせている。それが普遍的な「孝」である。「孝」は人間関係のみならず、万事万物を貫いている道理でもある。
- ⑤ 日常生活において、物事に触れたときに生じる、楽しい、悲しい、恋しい、憎いなどの感嘆こそ本来的な心の働きである。人間は感嘆によって物事の本質を知る。



## 倫 理

問 6 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 道は抽象的な理ではなく、善くも悪しくも生まれついたままの真心であり、その真心に立ち戻るべきである。そのためには朱子学や仏教のように理屈で道を捉えようとする精神を捨てなければならない
- ② 日常卑近な人間関係における愛はかすかで小さいが、その愛こそ拡充すべき実の心である。人々が孔子の道に立ち戻り、他者に対して忠信や忠恕ちゆうじよに努めるならば、互いに愛し親しむ和合が実現する
- ③ 天道は事物のおのずからの働きであるが、そこに人道が加わることによって事物は完全になる。人道とは日々の生活における分度と推譲であり、それによって天地や他者の恩恵に報いなければならない
- ④ 日々営まれる農業こそ、自然の根源的な生成活動としての天道にかなうものである。万人が直接に農業にたずさわる自給自足の生活に復帰すべきであり、農民に寄生している武士や町人は無用である

問 7 本文の趣旨に照らして、下線部㉔の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

28
----

- ① 親鸞と仁斎は、当時の主導的な思想が提示していた仏や聖人という理想像と自己との隔たりに苦悩しつつ、人間の真実のありようを新たに見いだした。彼らが私たちに提示していることは、理想像から隔たっている現実の自己を誠実に見つめて人間の真実を探るという生き方である。
- ② 親鸞と仁斎は、当時の主導的な思想が提示していた仏や聖人という理想像を前提にして、そこに至る方途を新たに見いだそうとした。彼らが私たちに提示していることは、自己を誠実に見つめることによって現実に即した理想実現の新たな方途を見いだそうとする生き方である。
- ③ 親鸞と仁斎は、当時の主導的な思想が提示していた仏や聖人という理想像と自己との隔たりに苦悩する中で、その理想像を疑い始め、やがて批判した。彼らが私たちに提示していることは、現実に深く根ざした新たな思想を築くことで既成の理想像を批判していくという生き方である。
- ④ 親鸞と仁斎は、当時の主導的な思想が提示していた仏や聖人という理想像とは異なる理想像を現実の生のうちに新たに見いだした。彼らが私たちに提示していることは、現実の自己を誠実に見つめることで現実の生を肯定的に捉え直し、新たな理想を見いだそうとする生き方である。

第4問 次の文章A・Bを読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 25)

A ㉑ 人間は理性的存在であると言われる。人間は、物事を合理的に思考し、善悪正邪を正しく判断し、思慮分別ある行動をとる能力をもつ。西洋近代の人間観の基礎をなすものは、このような人間理性の能力への信頼である。科学技術の発展や市民社会の形成もまた、こうした人間理性への信頼なしには、ありえなかったと言っても過言ではない。

しかし現代では、㉒ このような理性的人間観に対しては、様々な角度から疑問が投げかけられている。実際、二度の世界大戦、核・化学・生物兵器の開発、地球規模の環境破壊、㉓ 管理社会の危険性などといった問題に直面して、私たちは従来のような近代理性主義に対する再検討を迫られている。

例えば、ドイツの思想家ホルクハイマーによれば、近代の啓蒙的理性は、人間が自然を支配するための  となったが、この理性が作り出した科学技術や社会体制は、かえって人間を支配するようになった。かくして、自己批判という本来の働きを失って  と化した理性が、現代文明の野蛮化と人間疎外の状況を生み出している、というのである。

あるいは、フランスの思想家フーコーによれば、近代的理性は、非理性に対立するものとして現れて、 ・不道徳・病気などをすべて、自らの他者あるいは異質なものとして社会から排除し監禁した。そして、 を差別化する過程で、理性は自らを絶対的基準として確立した、というのである。

現代思想の系譜は様々である。その中でも特にこうした近代理性主義と理性的人間観への批判の上に立って、新たな知と人間観を模索する動きがあるということとは銘記されてよいであろう。

問 1 文章中の 29 ・ 30 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

29 ① 道具      ② 原理      ③ 権威      ④ 情念

30 ① 未開      ② 狂気      ③ 道化      ④ 無知

問 2 下線部㉔に関連して、人間を「理性的動物」とする定義を再検討した思想家にカッシーラーがいる。カッシーラーによる人間の定義に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① 組織を形成して他人と共存し、集団生活を営む社会的な存在。
- ② 自然に働きかけて物を作り、環境を変えていく実践的な存在。
- ③ シンボルを介して世界を理解し、芸術や宗教を作り出す存在。
- ④ 競争と表現を楽しみながら、遊びの中で文化を創造する存在。

問 3 下線部㉕に関連して、理性的人間観を揺るがすことになった思想家の一人に精神分析学の創始者フロイトがいる。フロイトの学説に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① 自我は快感を求めるエス(イド)の要求を現実に適応させ、同時に良心としての超自我の命令にも応じようとする。
- ② ノイローゼ(神経症)の原因となるものは、心の深層としての無意識の中に昇華された性的欲求などの衝動である。
- ③ 欲求不満から生じる不安や緊張から自我を守ろうとする防衛機制は、欲求不満の原因となった当の問題を取り除く。
- ④ 両親の愛情を独り占めにしようとして、弟妹を邪魔者と感じる兄弟の心理を、エディプス・コンプレックスと呼ぶ。

## 倫 理

問 4 下線部㉔に関して、現代の管理社会に固有の危険性についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 33

- ① 管理社会においては、政・官・財の統一的な管理機構が成立し、その機構に属する人々にとってのみ有利な支配が、その大きな権力や経済力をもって、組織的に行われる危険性がある。
- ② 管理社会においては、各種情報システムの発達によって、個人データの徹底した管理が可能になったが、その利用の仕方しだいでは、プライバシーの権利が侵害される危険性がある。
- ③ 管理社会においては、マスメディアを介した情報の管理によって、人々の意識や理解が画一的になるように操作され、人々の心の在り方にまで意図的な介入が行われる危険性がある。
- ④ 管理社会においては、ただ一人の独裁的な支配者が、特定の人々だけに権限を恣意的に委譲することによって、他の多くの人々を不当に抑圧し、過酷な奴隷状態に置く危険性がある。

B 古来、人間は①生と死をめぐって思索を続けてきた。それに加えて、20世紀後半以降、生命科学や医療技術の発展に伴って生じた事態にどのように対処すべきかという、生命倫理の領域が新たに注目されるようになった。

そこでは、脳死・臓器移植、安楽死と尊厳死、人工授精などに関して「自己決定権」が尊重されるべきだとしばしば言われる。この背景には②J. S. ミルの自由論がある。彼は、個人の自由を最大限尊重すべきだという考えを展開し、③「人の意思に反して権力を行使する唯一の正当な目的は他者への危害の防止である」とする原理をうちだした。この原則のもとに個人の自由を強く肯定するのが、「自己決定権」という考え方である。

しかし、④生命倫理において主張される自己決定権の尊重をめぐっては、つねに困難な問題が伴う。例えば、他者への配慮という問題がある。他者との関係をまったくもたない人はいないからである。生命・身体・臓器は、他者と無関係な自分だけのもので自分だけがそれに関する決定権をもつ、とは簡単には言えないのである。

## 倫理

問 5 下線部㉔に関して、次のア～ウはそれぞれ誰の思想であるか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。 34

ア 人間は、死や苦しみなど、自分の力ではどうすることもできない状況に直面したときに、その不安と絶望を越えて、超越者に出会い、しかも他の実存との「愛しながらの戦い」によって連帯することで、真の実存に目覚める。

イ 人間も生物であり、生きるために他の生き物を傷つけざるをえない。しかし、倫理的な存在として、人間はすべての生命ある存在を愛さなければならない。この葛藤かつとうの中で各人の責任において行動を決定するのである。

ウ 人間は、身体的存在としては、圧倒的に優勢な宇宙に比べ、きわめて無力で卑小である。だが、人間は理性的存在であり、自分が死ぬことを知っている。考え、知ることによって人間は偉大である。

- |   |   |        |   |          |   |             |
|---|---|--------|---|----------|---|-------------|
| ① | ア | サルトル   | イ | ガンディー    | ウ | エラスムス       |
| ② | ア | ヤスパース  | イ | シュヴァイツァー | ウ | パスカル        |
| ③ | ア | キルケゴール | イ | ガンディー    | ウ | ピコ・デラ・ミランドラ |
| ④ | ア | サルトル   | イ | ヘーゲル     | ウ | ピコ・デラ・ミランドラ |
| ⑤ | ア | ヤスパース  | イ | シュヴァイツァー | ウ | エラスムス       |
| ⑥ | ア | キルケゴール | イ | ヘーゲル     | ウ | エラスムス       |
| ⑦ | ア | サルトル   | イ | ガンディー    | ウ | パスカル        |
| ⑧ | ア | ヤスパース  | イ | ヘーゲル     | ウ | パスカル        |
| ⑨ | ア | キルケゴール | イ | シュヴァイツァー | ウ | ピコ・デラ・ミランドラ |

問 6 下線部㉔の J. S. ミルに関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① 快樂に質的な差異を認め、人間の良心や利他的心情を重視するとともに、行為の正・不正の基準を、その行為が自分を含めた関係者の最大の幸福をもたらすかどうかという点に求めた。
- ② 豊かな社会を実現するには、一定のルールのもとで、自己の幸福を求める個々人の自由な活動を最大限に認めることが大切であり、社会は構成員の相互的な愛情や親切心に頼らなくても十分成り立つとした。
- ③ 個々人の幸福追求が社会の最大幸福につながるようにしようと、行為の是非を客観的に判断する方法を提案し、刑罰など外的強制を含め、人々の正しい行為を促す様々な制度的工夫を行った。
- ④ すべての人が幸福になるためには、各自が無秩序に利益追求を行う資本主義社会の仕組みを根本的に改め、経済活動を計画的に行うことによって社会の生産力を発展させ、富を公平に分配する必要があるとした。

問 7 下線部㉕で述べられている原則に従う判断として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 喫煙は、周囲の人の健康への影響を無視できないから、人の集まるところで制限したり禁止したりすることは正当である。
- ② 病気でもないのに、美容や装飾のために、親からもらった身体を傷つける行為は許すべきではなく、法律で禁止すべきである。
- ③ 自動車事故による死傷者の発生を抑制するために、法律で運転者にシートベルトの着用を強制することは当然である。
- ④ 命を落とすかもしれない危険な冒険に出かけるということは、他の人に害を及ぼさないとしても、国などがそれを妨げることは許される。



## 倫 理

問 8 下線部⑤に関して重要視されている「インフォームド・コンセント」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 37

- ① インフォームド・コンセントとは、患者が、最新の治療を受けるために他の病院を紹介してもらうなど、医師に対して医療情報の提供を求める権利のことである。
- ② インフォームド・コンセントとは、患者が医師から症状や治療の内容について十分な説明を受け、それを理解した上で、治療方針を自ら選ぶことである。
- ③ インフォームド・コンセントとは、できるだけ退院を早めるために、医師が一時帰宅を中心とした治療プログラムを、患者の家族と相談して作ることである。
- ④ インフォームド・コンセントとは、深刻な病気であることを医師が家族にのみ告知し、患者にはストレスや不安を抱かせないで、治療に全力を尽くすことである。

問題と解答は、独立行政法人 大学入試センターホームページより転載しています。  
ただし、著作権上の都合により、一部の問題・画像を省略しています。

日本一の学校情報



<http://www.js88.com>

インターネット塾・予備校情報サイト



<http://jyuku.js88.com>